

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572206944		
法人名	琴丘ふくし会		
事業所名	やすらぎホーム希望の家		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字町後256		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が高齢化、重度化している為、個々のケアを大切にしています。今現在出来る事を行ってもらう様に努めています。新型コロナウイルスの流行により、敷地内の同法人の特養やデイサービスとの合同行事や交流も無くなっていますが、季節に合った行事を計画して利用者と職員と一緒に楽しんでいます。毎日の余暇活動も多種・多様な活動は出来ませんが、出来る限り継続して取り組んでいます。家族の方へ利用者の状態に変化があれば、細目に連絡したり、検査等の受診には付添いをお願いする等して繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ログハウス調の建物の内外に木の温もりが感じられ、生活している人にも訪れる人にも安心感に繋がっているように思えます。利用者の機能の低下が著しく、できることも少なくなってきましたが、馴染みの職員に囲まれて安心できる生活を送ることができています。コロナ禍にあって活動の自粛を余儀なくされ、利用者の生活環境は変化していますが、母体施設との繋がりが重視し、以前のように地域の方と幅広く交流できる機会に向けてできることを工夫しながら支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人の利用者が自分らしく生活出来る様に個々を尊重して支援をしている。理念や目標をホールに掲げており、職員会議やケアプラン作成時も再確認している。	ケア会議での話し合いを利用者の生活に活かすことができるよう理念を意識して介護計画に反映させ、サービスの向上を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行で外部との交流が少ない中、定期的な受診や訪問美容など、地域の知人等に接触する機会があり、近況等を話したりすることもある。移動売店も利用者の要望で職員が注文して利用している。	町民祭に出かけたり、中学生との交流等が盛んに行われていたが、コロナウィルス感染拡大防止のため、利用者が地域の方と関わることは限られたものになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	新型コロナウイルスの流行で、現在は、地域との繋がりは少ないが、施設内での日常生活の様子を載せた広報を全戸配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの流行の為、運営推進会議は開催していないが、入居者や施設内の状況等を知らせている。	ホームの状況を報告するにとどまっていることから意見をいただくことがなく、運営に活かす機会とはなっていません。	議事録を整備すると共に、参加メンバーから意見を出していただく取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開催していないが、2か月に1度は本所に出向き、日常生活の資料を提出し意見を求めている。分からない事や不明な点があれば、随時、電話等で確認をする。	制度上の不明点については都度担当部署に相談して対応していただき、積極的に協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員の方より定期的に研修を行ってもらい、その都度日頃の業務内でも不適切な対応等があったかを確認している。	職員は研修を通じて理解を深めており、身体拘束、虐待のないケアを実践していますが、咄嗟に出してしまう声かけについては不適切な言葉遣いと認識し、その場で反省しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している利用者が2名に増えた為、三種社協の担当者を招いて研修を行いたいと考えたが、コロナ流行に伴い、出来ていない。2名の方が利用しているので、その都度担当の方と連絡を取り合い、支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前に希望者には施設見学を行ってもらい、相談や要望があれば対応している。契約時も説明し理解してもらったうえで契約を行っている。入居後も改定があった場合は個々に文書を送付したり説明したりして理解を得る様にしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	日常生活の会話の中で利用者の要望や不満がないか聞き出す様にしている。また、御家族についても面会や来苑時に要望や意見がないか確認したり、ケアプラン作成時にはできる限り要望等がないか確認している。	受診時や支払いに訪れた際に要望の引き出しに努め、意見、要望があった場合にはサービスに活かせるように取り組んでいます。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	日々のケアの中での職員の気づきや意見を聞き職員会議を通し解決する様に努めている。それでも解決できない場合は法人全部署で行う経営会議等の提案する様にしている。	管理者は職員会議で或いは日常の業務の中でも積極的に職員の意見を聞く機会をつくり、運営に反映できるよう努めています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会、地域包括センター等の職員とは連絡を取って相談等を行っているが、地区内のグループホームとの交流や出向く機会は殆どない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネより情報提供をして頂き、事前訪問時に本人の様子を見ながら不安な事や要望を聞く様にしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学に来た時家族が困っていることや不安な事があれば少しでも解消出来る様に努めていく様に心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の利用者の出来る事は違いますが、出来る事を見つけて一緒に行う様にしている。(掃除や洗濯たたみ等)		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も出来る限り行っています。検査等の受診には必ずご家族にも一緒に付き添ってもらう様にしている。毎月の生活状況を送付し、状態に変化があれば、その都度報告し情報を共有する様にしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	病院受診後に自宅周辺へ出向いたり、掛かりつけ医に受診している。また家族に電話したり、手紙を送る等して継続して支援している。同法人内の特養を利用している家族とも定期的に手紙や写真、ビデオレター等を渡して、職員が間に入って交流している。	制限が続く中でも馴染みになった方との関りが継続できるように努めている他、家族が支払いに訪れた時に利用者の様子をさりげなく見ていただけるように声をかけ、関係継続のための配慮をしています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士の関係を把握し、レクや軽作業を通して実施している。利用者同士で出来ない所を協力して行っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の特養に移動した方もいる為、細目に様子を見に行き情報交換している。また御家族へも同様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やケアの中で本人の希望や意向を確認している。ご家族についても受診時や面会時の会話の中でご家族の思いを汲み取る様に心掛けている。	日々の関わりの中で職員が気づいたことや利用者が直接話してくれたことを情報として共有し、生活に反映できるように取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネより情報を得て、これまでの生活状況の把握に努めている。全職員で把握し、本人が求める生活が送れる為の、判断材料にしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いに添える様、話しを聞いている。また、職員会議時に、担当職員からの意見を全員で検討し反映している。介護計画書は家族にも送付し、確認の上署名・捺印をもらい、出来る方からは、本人から署名をしてもらっている。	担当職員のモニタリング後、他の職員も意見を出し合い、介護計画を作成しています。	重複記録の改善のための検討を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況をケース記録等に記録し、職員全員で共有している。ケアプランに基づいて実践し、担当職員に月例報告をしてもらい、職員全員で検討している。状態の変化を家族にも報告しながら、変化に応じて介護計画の見直しをしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前の様に、学生ボランティアの受け入れが出来ていない。避難訓練も消防署員の参加はあるが、運営推進会議のメンバー（民生委員や御家族等）の合同訓練等が出来ていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り御家族やご本人の意向に沿って対応し、入所前から継続して受診されている。検査等がある場合も必ず家族の意向で病院を決め、家族にも同席して頂いている。（薬局も同様です）	入居時に意向を確認し、希望に沿って対応しています。かかりつけ医との連携を密にし、適切な支援が行われています。歯科受診については訪問診療が可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護師は常駐していないが、緊急時の対応等同法人の特養看護師が駆け付けてくれる等の対応をしてくれる事もある。また、予防接種等の対応も行ってくれる。また掛かりつけ医の看護師も細目に状態を相談して対応してくれている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は必ず職員が付き添いする為、情報交換を行ったり、カンファレンスに参加し、情報を共有し、相談等を行い、今後の支援に生かしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が上がり、対応困難になった時は、同法人内の特養の入居申し込みを行い、特養の調整委員会の方で対応してもらっている。終末期の在り方については家族の意向を尊重して、主治医とも相談し対応している。	重度化した場合には医師、家族と協議し、法人内或いは他施設への移設支援が行われていましたが、医師、家族の協力が得られ、直近で看取り支援を行ったことから、今後の取り組みについて検討を予定しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの作成や見直しを行い、職員会議時に、適宜研修も行っている。職員全員が、救命救急の研修を受けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの避難・消火訓練も行いその都度消防署員よりアドバイス等をもたらしている。例年行っている合同の訓練、運営推進会議の中での避難訓練も行っていないが、避難・通報訓練時には地域の消防団長にも連絡が行っている。	日中、夜間の火災を想定した避難訓練、通報訓練が行われ、水害時の訓練は法人合同で行うことにしています。有事の際の消防団の協力体制はできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声のトーンに注意しながら対応している。訪室時はノック・声掛けをする・入浴時やトイレ使用時は、確実にドアを閉める等、基本に添って対応している。	嫌がることには無理強いせず、個々の意思を尊重した対応をしています。排泄時の介助、声かけの仕方には他の利用者への配慮も心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選べない方はご家族が好みの色を購入して来たり、近隣の衣料品店より配達して頂き、自分で選び購入する方もいる。「この色嫌いだ」等とはっきり話される方もいる為その都度対応している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供は同法人内の特養に入っている業者の方から提供があり、盛り付けやみそ汁を作成して、味見等を行ってもらっている。季節に応じた行事食の提供やセレクトメニュー等もあり大変喜ばれている。テーブル拭き等も継続しているが、利用者との食事の摂取は感染予防の為行っていない。	今はできることが少なくなりましたが、利用者の状態、機能に応じて一緒にできることを企画し、食への関心に繋げていきたいと検討しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や嚥下等の機能低下の方が増えた為、特養の管理栄養士に相談してその都度対応している。食事や水分量のチェックは確実にし、皆で共有し体調管理に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを理解していない利用者が多く、毎食後職員が義歯洗浄・うがい等を一緒に行っている。夕食後には義歯洗浄剤を使用して、翌日には必ず義歯の装着を確認しています。適宜口腔体操も実施している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の間隔を全職員が把握している為、適宜誘導をしている。トイレ誘導時2人で対応しなければならぬ方もいるが、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	その人の機能に合わせて排泄の支援をしています。何らかの支援が必要な方が多いものの、適切な支援によってリハビリパンツを使用しなくなった方もいます。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養バランスが摂れたものを全量摂取し、水分も多く摂取しているが、自然排便に繋がらない事も多く、歩行運動等体を動かす様にしている。また医師の方からも適宜薬の方を処方してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前には確実に本人に確認して行い、拒否する方にもうまく声掛けを行い、間隔が空かない様にしている。湯船に浸かる時間も個々の希望に沿って対応している。	入浴を促すも無理強いすることなく、利用者のその日の気分に合わせて週2～3回入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にテレビを持ち込んでいる方が少なく、サロンで過ごされる方もいる。テレビを見ながらゆっくりとソファでくつろいだり、自分の席でゆっくりとテレビを見ている方もいる。日中に体を動かす事で夜間の安眠に繋がっている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が変更になった時は必ず申し送りをして、処方箋等を全職員で回覧している。また糖尿薬を服用する方もいる為毎日の食事を確認して変化があれば主治医に報告する様にしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯畳み等自宅で日常的に行ってきた事を、出来る方には行ってもらっている。歌や体を動かす事は楽しんで行っているが、高齢の利用者が多くなっている為、若い時に行っていた事が出来ない利用者が多くなっている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前の様な外出は出来なくなっているがお花見や町内巡り等のドライブを行った。また受診後に地域や自宅を見に行ったりした。	長期にわたって皆で外出を楽しむことがなくなっていますが、受診時に車で遠回りして帰る等、少しでも気分転換に繋げることができるよう配慮しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金額はあまり多くないが、自分で財布を所持している方もおり、好物のお菓子等を購入している。また受診時等、売店より好きな物を購入し、預り金より支払いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面には季節に応じた飾り物をして いる。室内は天井からの光と西日がまとも に当たる為、その季節によって簾を下げたり 工夫している。脱衣場も冷暖房が無かった が、付けて頂き寒暖差に配慮している。	廊下にソファを設置したことで利用者の寛 ぎのスペースとなっています。ホールの天井 から明かりを取り込める造りですが、日差し が強く差し込む時季があるため、居心地の良 い共用空間を提供できるよう法人本部と対策 を協議しています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	ホール壁面には季節に応じた飾り物をして いる。室内は天井からの光と西日がまとも に当たる為、その季節によって簾を下げたり 工夫している。脱衣場も冷暖房が無かった が、付けて頂き寒暖差にも配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	自宅で使用していた寝具、遺影等を持って きている。タンスやテーブル等は備え付けて いる為、持ち込む利用者の方はいないが、 入所時等は本人や御家族にも持ち込みが 出来る旨も話をさせて頂いている。	利用者の状態に合わせて室内環境を整え、 安全に過ごせるように配慮しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	殆どの利用者が、職員が付き添いや誘導を しなければならない状態だが、付き添う際 は、手すりに掴まってもらっている。トイ レや洗面台には、分かり易く表示している。		